

令和元年度 日本大学スポーツ科学部 学部研究費 研究実績報告書

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科  
 資格： 准教授  
 氏名： 種ヶ嶋 尚志

	<p>青年期における競争心と完全主義に関する研究</p>
<p>研究目的及び 研究概要</p>	<p>競争を行うことの肯定的な面と否定的な面の両面が明らかになる中で、どのようなパーソナリティが競争心に関係するのかを明らかにしている研究は少ない。そこで本研究はパーソナリティの一つである完全主義に着目し青年期の競争心と完全主義の関連、また完全主義が競争心に及ぼす影響、競争心の諸特徴について大学生369名を対象に検討することを目的とした。</p>
<p>研究実績の概要</p>	<p>競争心と完全主義を検討するために調査項目として、多面的競争心尺度（手段型競争心、負けず嫌い、社会的承認、過競争心、競争回避、自己志向的完全主義尺度（PS：高目標設定、CM：失敗過敏、DP：完全性欲求、D：行動疑念）を実施した。          その結果、競争心の得点が高い傾向は低い場合に比べて、日常生活における満足度が高く、大事な場面で実力発揮が出来きていた。さらに競争心の得点が高い傾向は目標を持つことを志向する傾向が強いことも認められた。競争心に影響する完全主義は“手段型競争心”では高目標設定傾向（PS）であり、“負けず嫌い”では完璧を求める欲求傾向（DP）であり、“競技回避”では失敗過敏傾向（CM）が影響していた。競争心は、高目標設定完全主義・完璧を求める欲求完全主義を高く志向する群がより強い競争心を示し、失敗過敏完全主義を志向する群は目的型競争心に関与するが、手段型競争心には関係しないこと明らかとなった。これらのことから競争心に関連する完全主義は主として高目標設定完全主義と失敗過敏完全主義であることが示唆された。</p>